

名 称	塩尻市ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒399-0738 塩尻市大門七番町4番3号
連 絡 先	TEL : 0263-52-0280 FAX : 0263-53-7604 URL : http://www.city.shiojiri.nagano.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 塩尻市 68,600人(平成19年2月1日現在)

本塩尻市は、松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であり、近世の中山道、三州街道、北国西街道沿いに栄えた「奈良井宿」、「贄川宿」、「本山宿」、「洗馬宿」、「塩尻宿」、「郷原宿」は、今もその面影が残り、往時の賑やかさが偲ばれている。特に中山道木曾11宿の中で最も賑わいを見せた奈良井宿は、往時の景色をよく残していることから、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

歌人ゆかりの地である本市には、本棟作りの旧家を移築した短歌館や歌碑公園がある。歌碑公園には、近代短歌の潮流といわれる「太田水穂」、「島木赤彦」、「若山牧水」をはじめ、女流三歌人の「若山喜志子」、「四賀光子」、「潮みどり」の数々の優れた歌碑が建立され、短歌館には、それら歌人たちの遺品が展示されている。また、毎年開催される「全国短歌フォーラム」は本年度20回を数え、全国から数多くの短歌が寄せられ、全国の歌人の心を時めかせている。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「子どもの居場所づくり 地域子ども教室推進事業」

地域子ども教室推進事業とは、放課後や週末に、学校の教室等を活用して子どもたちが安全・安心に活動できる居場所となるように推進している文部科学省の委託事業である。本年度塩尻市では、四つの地区公民館で地区の児童を対象に体験活動教室、市内の中心地区にある塩尻市立桔梗小学校では、市内全域の小学生を対象に「遊びグルメ教室」「卓球教室」を実施している。

「遊びグルメ教室」は、年間18回のうち前半8回は「遊び・レク」をテーマに体育館で、後半10回は「料理」をテーマに家庭科室で活動した。時間は、水曜日の放課後2時半から5時までの2時間半を当てた。募集方法は、会場校の児童全世帯にちらしを配布。その結果、申し込み数は1年生から6年生まで34人。「卓球教室」は年間21回、時間は土曜日の9

時半から正午までの2時間半とした。募集方法は、会場校の全世帯へのちらしを配布し、子ども向け活動情報紙（市内小学校全世帯配布）にも掲載した。その結果、1年生から6年生まで34人の申し込みがあり、そのうち三分の一は会場校以外の小学校からの参加者となった。

両教室ともに様々のボランティアの方々の協力をいただいたことが、事業を特色あるものにした。具体的には、学校支援ボランティアによる絵本の読み聞かせ、レクリエーションコーディネーターによる遊び・レク指導、近隣公立高校のボランティアクラブの生徒による見守り援助、会場校に通う児童の保護者による料理指導、スポーツ少年団指導者による卓球指導等、実に多くの事業に多数の地域の大人・高校生が関わっていただいた。また長期間にわたって行われたことは、親や教師以外に地域の大人と触れ合う機会の少ない児童にとって貴重な経験となった。地域のおじちゃん、おばちゃん、おねえさんとの交流は、指導する側とされる側に二分された人間関係に慣れている子どもたちには、最初は戸惑いの様子が見られたが、徐々に親しみを感じて活動を楽しめるようになっていった。主催側としても、活動通信を作成し、活動の様子を写真入で保護者に報告するとともに、できるだけ送迎の折に保護者と会話を通して情報の共有に努めた。

教室別に見てみると、「卓球教室」は、楽しく、そして一人一人の可能性を引き出すことを願って指導者が毎回きっちりとメニューを立てて実施され、指導者の熱意が児童のやる気を引き出し、両者の信頼関係がはぐくまれていった。

「遊びグルメ教室」は、低学年と高学年で下校時間が異なるため、先に下校となる低学年だけ1時間ほど絵本の読み聞かせの時間をつくり、高学年が揃ったところでその日の活動が始まるという時間差の活動スタイルで行った。また、春から秋までの「遊び・レク」活動、秋から冬までの「料理」活動と季節に合った内容を工夫し、児童の事業への関心を高めることができた。これは、冬の体育館が寒いここ塩尻の地域性を考慮したからである。1年から6年までの異年齢集団の「遊び・レク」活動では体力等の差が顕著で、学年単位の活動が多くなったが、「料理」では学年縦割りで作班をいつも同じメンバーで活動したので、徐々に仲良くなり班の結束ができ、協力し合う姿が見られるようになった。低学年の希望を優先したり、作業しやすいように助けてあげたり、後片付けも協力しあったり、という様子は微笑ましいものであった。

コーディネートの実際

両教室の委託事業は地域に根付き、予算措置が無くなった後も地域に継続していくことを目標とした。「料理教室」は地区公民館主催事業への移行することを視野に入れ、指導者も地域の皆さんを中心にチームを組み、「卓球教室」は市体育協会（以下、「体協」という。）卓球部の事業化を視野に体協への働きかけを行いコーディネートに努めた。

「卓球教室」

平成16年度から始まった「卓球教室」は、スポーツ少年団指導者2人が中心指導者となり、その他、体協卓球部の有志数人が補助指導員として都合の付く日に協力する、というや

り方で行なわれた。コーディネートで留意したことは、児童数に見合った指導者数を常時確保すること、卓球への興味が薄れて離れた場所で遊び始める児童らへの見守り援助をどうか、の2点であった。

まず、指導者確保のため、体協へ協力依頼をしたが、練習や試合が教室と重なることもあり、体協全体としての協力は得られなかった。そのため、全21回のうち9回を高学年のみの少人数教室に変更し、高学年教室では中心指導者2人だけで指導が可能な体制を組むこととした。更に体協会員以外の卓球経験者を一人、つてを頼って依頼することが出来た。

又、見守り援助については、近隣高校ボランティアクラブへ協力依頼をした。その結果、学校が休みの土曜日であるにもかかわらず、ボランティアクラブの生徒2・3人が交代で参加してくれた。また、教室での活動が家庭での会話の共通の話題になるように、保護者には児童の送迎だけでなく、一緒に参加することを呼びかけた。これにより、親に負けまいと児童のやる気も生まれ、保護者も共に楽しむ様子が見えるようになった。

教室終了後、平成20年度以降の教室継続を目指して、体協に事業として実施して頂くよう、検討をお願いした。

「遊びグルメ教室」

「料理教室」は平成16年11月から始まり、教育委員会の栄養士を中心に生活改善グループのメンバー数人に料理指導補助をお願いし実施していた。しかし、指導者の中には遠方から参加して下さっている方がいたため、できるだけ地元に住む方をお願いしたいと考え、会場校の児童の保護者に声をかけたところ、お母さん方数人が快く引き受けてくれた。

また、年間通じて行う教室ということで、内容も「料理」だけでなく「軽運動」を加え、指導者を探すこととなった。最初に、市の体育普及員の集まりに出向き、指導をお願いしたが協力を得られず、次に市社会福祉協議会へボランティア団体の紹介を依頼した。運良く職員の中にレクリエーションインストラクターの有資格者がいて、職員の所属するボランティアグループに協力してもらうことが出来た。「卓球教室」と同様に、見守り援助も近隣高校のボランティアクラブに協力してもらうことになった。

両教室に共通する成果としては、高校との連携や地域の方々の協力が得られるようになったことで、委託事業終了後の教室継続への足がかりができたことが挙げられる。

今後の事業運営上の課題として、今後も「卓球教室」が子どもの居場所になること、体協卓球部には、競技人口の増加と選手育成という双方のメリットをご理解いただき、事業化への取組を検討してもらえるように働きかけていくことが必要である。また、「料理教室」は地区公民館に事業を移行する取組が、残された課題と思われる。



「卓球教室」 指導員と試合をしている様子

執筆者職・氏名：塩尻市教育委員会 社会教育課 社会教育指導員 宮下 公子